

# 東奥日報

2018年(平成30年)11月9日金曜日(9)

現在私は、縄文文化をモチーフにした卒業研究を行っている。縄文文化について興味を持ったきっかけは、インバウンド(訪日外国人旅行者)に人気が始めているというニュースを見たことがきっかけだった。

もともと私は、大学でデザインについて学び、地域文化とデザインを結びつけたデザイングッズの制作やワークショップ活動などを行っていた。そこに今話題になっている縄文文化を関連させ、なにか面白いことしたいと考え、大学内でメンバーを集め、「縄文デザインプロジェクト」を立ち上げた。

メンバーみんなで八戸市の是川縄文館に行き、デザインに生かすためにさまざま

## 縄文に恋して

世界遺産登録応援エッセー <6>

渡辺 葵



△わたなべ・あおい、1996年生まれ。つがる市出身、八戸市在住。八戸工業大学4年。学内の縄文デザインプロジェクト代表。縄文土器の文様とデザインについて研究している。

まな出出品の文様を見て描き起こしたり、学芸員の方から縄文への熱い思いを聞いたり、当時の様子をうかがったりすることができ

さんの子供たちに縄文の文様に触れ合ってもらうことができ、充実したワークショップになった。

「縄文デザインプロジェクト」は、このような地域での活動が評価され、八戸市の「八戸まちづくりコンペティション」にて最高賞である市長賞をいただいた。また、是川縄文館にて制作したグッズも販売してもらえ、コメントをたくさんいただいた。このようなイベント販売のペースに置かせてもらっている。

### 土器文様をデザインに

この経験をもとに、昨年8月に行われた是川縄文祭りでは、縄文土器の一つ一つの文様をスタンプにし、土器のシルエットを模した画用紙に押しつけてデザインしてもらった体験型ワークショップを企画した。参加者は親子連れが多かった。たく

て、クリアファイルや缶バッチなど、メンバーで制作した縄文土器の文様をモチーフにしたマスキングテープ、缶バッジなどのデザイングッズも販売した。手にとってくれた方々にかわい

「縄文デザインプロジェクト」は、このような地域での活動が評価され、八戸市の「八戸まちづくりコンペティション」にて最高賞である市長賞をいただいた。また、是川縄文館にて制作したグッズも販売してもらえ、コメントをたくさんいただいた。このようなイベント販売のペースに置かせてもらっている。

その独特な土器の雰囲気は呪術や祭祀のささげものに使われていたとのことだが、あまりにも特異な造形は、宇宙人がその時代にいたという証明である、という驚くような考察が言われたりもしている。

縄文土器の文様には多くのロマンが含まれている。縄文土器のアシンメトリーでダイナミックな動きを感じさせる文様は、当時の激しい狩猟の様子を表しているとも言われている。また、

全ては縄文土器などからくみ取れる情報を少しずつ集めた想像の話かもしれないが、事実が見えないからこそ、私も含め、縄文というものに深く興味を引かれる人が多いのかもしれない。

縄文土器の文様には、デザインの観点から見ても興味深いものがたくさん潜んでいる。私は、卒業研究でそのいくつかでも取り上げることができれば良いと考えている。日常で縄文文化に触れ合う機会はなかなかないと思う。デザインを通じてこういった企画などを入り口に若い世代にも触れてもらい、私たちの活動が縄文文化への関心、興味を抱きかきつけられるようになっていたらどううれしいことだと思っ。

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」